



安城の若者が、
全国を舞台に

輝いてます！

この秋、立て続けに市役所に朗報が舞い込みました。
3人の安城の若者が、それぞれの得意分野で全国大会に出場し、
好成績を収めたのです。3人の活躍の様子を紹介します。

問▶ 秘書課広報広聴係(☎71)2202)

第69回日本学校農業クラブ全国大会「意見発表会」 最優秀賞&文部科学大臣賞受賞！

田尾^{さゆり}小百合さん(安城農林高等学校食品科学科2年)



農業高校の甲子園とも言われる「日本学校農業クラブ全国大会」。田尾さんは10月に鹿児島で開催された第69回大会で、研究や将来の抱負について7分間原稿を見ずに発表する「意見発表会」に出場。最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞しました。

発表のテーマは、いちじくの酵素を使ったチーズ開発。より美味しく、より短時間で製造できる方法を模索すると同時に、特許の申請や商品化、協力企業を探しに奔走した経験について、情熱たっぷりに話してみせました。

「県大会、東海大会と出場するうちに度胸がついて、壇上に立つと『気持ちいい！』って思うようになって」。表彰式では、最優秀賞受賞者として5000人を前に再度発表をすることになったものの、「最高に楽しかった！」と強心臓ぶりを見せます。

「高校生でも『世界初』のモノが作れるということと、愛知の農業はすごいんだということ、何よりこのチーズのことを多くの人に知ってもらいたい一心でした」と田尾さん。誰もが魅了されそうな天真爛漫さと研究へのまっすぐな思いが審査員の心を掴み、今回の結果をもたらしました。

プレイ
バック

いちじくを使い 開発したチーズ

「いちじくの酵素でチーズを凝固させます。牛乳臭さがなく、高たんぱく・低カロリーでカルシウムが効率よくとれるヘルシーチーズです」(田尾さん)



表彰式で最優秀賞を受賞する田尾さん

「発表では、聴衆一人ひとりの目を順に見つめながら話すことを心がけました」(田尾さん)。最優秀賞に加え、文部科学大臣賞のダブル受賞という最高の結果に

第69回日本学校農業クラブ全国大会「食品鑑定競技」

机に並べられた試料を正確に鑑定するテストで最高得点、
出場者180人の頂点に！



こうらひろき

高良紘生さん(安城農林高等学校食品科学科3年)



田尾さん同様、日本学校農業クラブ全国大会に出場。食品分野の鑑定競技で、約180人の出場者中最高得点を獲得し、最優秀賞を受賞しました。

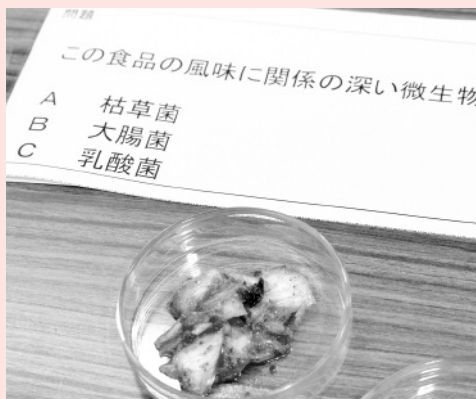
県大会を勝ち抜き全国大会出場を決めてからは、校内の実習室が勉強部屋に。実験器具に囲まれた雑然とした雰囲気落ち着くからと、数カ月間、放課後はここで何時間も勉強してきました。

競技は食品製造・化学、微生物基礎等、食品に関する問題が長机に40問並べられ、一問を20秒以内に回答していく形式(下段参照)。例えば『漬物』一つとっても、主原料・微生物・試薬・加工方法・製造機器等、範囲は驚く程多岐にわたります。

実習で学んだ事、独学で覚えた事、スーパード手にとった食品の袋に書かれていた事、全知識を総動員し、応用させ、答えを導き出していました。

この経験を経て、「今はどんなことも努力で乗り越える自信がある」と話す高良さん。将来は、「遺伝子やバイオテクノロジー分野に進み、未開拓分野で大きな発明をしたい。夢は大きくノーベル賞です」と強い眼差しで語りました。

プレイバック



並べられた試料の形状や匂いを考慮に入れながら、一問ずつ答えていきます。高良さんは「意外に簡単な問題ばかりだ」と感じたそう(写真の設問は全国大会で出題された問題とは異なり、難易度が低いものです)

鑑定競技の様子(再現してもらいました)

高良さんは今年度、今回の受賞の他に、愛知県専門高等学校生徒研究文・作文コンクールで最優秀を受賞した他、アグリマイスター顕彰制度(農業高校で取得した資格や検定等の実績を点数化し称号を与える制度)で、「シルバー」を取得。現在最高位の「プラチナ」取得の申請中です



日本学校農業クラブ全国大会
表彰式での高良さん

憧れの将棋会館での対局



ケーブルテレビ杯優勝者(悠斗さん・右と)ひかりテレビ杯優勝者が頂上決戦した「第8回将棋ジュニア銀河戦」決勝戦(11月18日)

自宅での練習は「ネット将棋」で

自宅ではもっぱらネット将棋。今年度学校に新設された将棋部で活動する他、日本将棋連盟安城支部の将棋教室に行くことも

「期待しています」
杉本昌隆七段

悠斗君は一昨年から私の教室に通ってきています。毎週来ている熱心な生徒で、いつも半ズボンの元

気な少年。粘り強く、最後まであきらめない将棋を指します。私の5面指し(同時に5人相手に指すこと)でも、最後まで残って頑張り抜く。粘り倒されたことも何度もあります。棋士である私と指すようになってから、自分の将棋に自信をつけたようです。今回、大きな結果を残しました。さらなる活躍を期待しています。



悠斗さんも
出場します！

第8回新春将棋大会出場者募集！

1月6日(日)午前9時～午後2時、桜井福祉センターにて。
申込締切は12月26日(水)。詳細は同センター(☎99)7365)まで

ケーブルテレビ杯ネット将棋選手権
将棋を始めてわずか4年での全国優勝！

ゆうと
杉浦悠斗さん(篠田中学校1年)



11月、ケーブルテレビ杯ネット将棋選手権大会ジュニアの部で優勝した杉浦悠斗さんは、プロ棋士を目指す中学1年生。

小学5年生でプロ棋士養成機関である「奨励会」の下部組織「東海研修会」に入会。藤井聡太七段の師匠、杉本昌隆七段の教室にも入会を認められ、放課後や週末、名古屋まで電車で通う日々です。

本格的に将棋を始めたのは小学3年生当時。安城の将棋大会で負けた事で将棋への思いに火がつき、すぐに地元の将棋教室に入会。素質はみるうちに開花し、強い相手を求めて各地の大会に出場、6年生で「名古屋小・中学生将棋大会」高学年の部で優勝する等、着実に力をつけてきました。

東海研修会でも順調に階級を上げており将棋を始めてわずか4年での快進撃。一方で、プロになるには26歳のタイムリミットがあり、常にライバルとの競争にさらされる等、厳しい道を自覚する本人は、「やれるところまで頑張るだけ」と冷静です。

ケーブルテレビ杯優勝で挑戦権を得て出場した将棋ジュニア銀河戦決勝戦では惜敗。それでも憧れの将棋会館(東京)で対局できたことを「不思議な感覚だった」とはにかむ姿は、13歳のあどけなさ大きな可能性を感じさせました。